

# 第4回(仮称)対馬市市民基本条例検討委員会

## 資 料



日 時 平成23年1月26日(水)

会 場 美津島文化会館

## 目 次

前回の内容	1 - 7
報告（１）女性及び青年の集いについて	8 - 14
報告（２）アンケート調査について	15 - 18
議題（１）条例の前文及び目的について（たたき台）	19

前回の内容（第3回検討委員会 11月9日）

「市民が主役」となるために自分自身に何が必要でしょうか？ 1 班

- ・情報公開 自分に素直に！！
- ・対馬を知る 好きになる 前向きに参加する
- ・対馬を好きになる
- ・自分に自身を持つこと
- ・今以上に対馬を知ること
- ・地域のことは地域で考えていく時代づくり
- ・住民が集う場を作ろう
- ・今以上に NPO への積極的参加
- ・対馬の良き人情を知る
- ・地域グループに積極的に参加

- ・自分に自信を持つ（ための行動）
- ・個人1人1人が活動しやすい場づくりの設定（何でもどんなことでも自由に意見を述べられるように）
- ・責任感をもったの発言意見
- ・たまには馬鹿になることも大事
- ・自分にできることを1つでも見つけたい
- ・対馬の新発見
- ・条例を守ること
- ・自分でできることを何でも良いから対馬の為に力を注ぐこと。
- ・市民を自分に置き換えて判断
- ・平穩ではだめなの？
- ・目くばり、気くばり、目的意識を高める
- ・市民1人1人が何かの役を担う
- ・行事に参加することから始める→人を知る→仲間（どうやって作る）
- ・自分に出来ることバンクの創設
- ・評価の重要性
- ・ボランティア（無償）の意識
- ・古き良き時代の復活行動
- ・自己中心からの脱却
- ・知識の習得
- ・自分が考える対馬の未来図
- ・対馬のために何が出来るか考える
- ・目的意識（方向性）を強く持つこと→そのための具体策、舵取り
- ・参加、仲間
- ・思いやり、とにかく話す、交流を増やす
- ・わずかな物質と豊かな心
- ・行動への積極的参加
- ・対馬を知る。好きになる。他人を知る（理解する）
- ・心のゆとり
- ・人と人とのつきあい希薄化
- ・仲間同志のバックアップ
- ・対馬の良さを再発見
- ・区長以外のリーダーの必要性→顔づくり
- ・意見を出すための集う場所づくり
- ・集団の中でわずかでも役立つと思う行動発言
- ・道徳心・モラル

「市民が主役」となるために自分自身に何が必要でしょうか？ 3 班

- ・地域に入りその思いを聞く
- ・地域にはそれぞれリーダーはいるが、それが反映できない
- ・地域の話聞く、まとめる
- ・話し合いの中に問題が生じた場合、指導的協力者（アドバイザー）が必要
- ・場所の提供をして、情報交換ができる
- ・主役になりたくない。（生活を守る）
- ・自慢し役、宣伝役、周囲の人を取り込む、世話焼き、文句言い番
- ・町づくりへの関心を持つこと
- ・市民活動をバックアップする財源の確保
- ・市民の意見を広く聞くことができる場の提供
- ・まちづくりへ積極的に参加する →リーダー（観光、農林水産、観光）作る。→市民の協力
- ・子どもの意見
- ・市政への関心、関与
- ・地域行事、グループへの参加

「市民が主役」となるために自分自身に何が必要でしょうか？ 4 班

- ・市民1人1人が何らかの役を担う
- ・地域（対馬市）の実情を知る →好きになる
- ・自分を自分に置き換えて判断、考えた方がいいのではないか
- ・小さい事からはじめる（自分ができること）
- ・ボランティア意識も必要
- ・そもそも市民が主役とは！！
- ・自分が主役になって対馬のために何かする
- ・市民意識アンケートをしては？
- ・目くばり 気配り
- ・目的意識を持つこと
- ・一過性を継続
- ・目的のために行動するためには、知識を得る必要
- ・心にゆとり
- ・仲間づくり
- ・自分のできることから何かやってみる

- ・自分に何ができるか 積極性を持つ
- ・町おこしに奮闘する
- ・地域マネージャーを活用する
- ・行政に協力を惜しまない
- ・学習と趣味を生かす
- ・他人を大切にす
- ・権利と義務を果たす
- ・情報の公開・提供
- ・他人の成功を望み、自分自身を高める
- ・人の幸福を言べる人間になる
- ・協調性を養う
- ・人の足を引っ張らない
- ・絶えず向上心を持つ
- ・公平な行政
- ・自覚が必要
- ・貧富の差を縮める
- ・財政予算を市民中心に使う
- ・行政に関心を持つ
- ・市議会に関心を持つ
- ・自分自身を大切にす
- ・1人1人の市民が一步踏み出す勇気を持つ
- ・犠牲的な精神と行動が必要
- ・演劇と同じように主役となれるよう相応に努力する
- ・自分の意見をはっきりと主張する
- ・対馬をよく知り、対馬を好きになる
- ・対馬の文化・地域資源を有効活用する
- ・場の提供
- ・個々の役割

- ・市民1人1人が発言と行動に責任を持つ
- ・行政まかせにしない（市民が積極的に物事に参加）
- ・マクロ 目標、目的、方向性
- ・ミクロ その具体策
- ・自分ができるところを精一杯する
- ・市政への参画（積極的なかわり、他人まかせにしない）
- ・情報の共有（市から市民へ）
- ・色々な物事に参加し見聞を広める
- ・市民相互の交流を活発にする そのためにまず対馬の人、物をもっと知ること
- ・知り合え、語り合える機会を作ること
- ・人の繋がりから市民が繋がって行くことから市民の結束力が増す
- ・住民が心を一つにする
- ・地域住民として自主的に行動し、努力して市民がコミュニケーションを図り、市民としての意識を高める必要がある

## 最後のふりかえり意見

- ・ 条例作成にあたっては、地域マネージャーを活用するルールを検討していきたい。
- ・ 自分が主役になれるようものもちたい。
- ・ 得意分野のボランティア登録。
- ・ 対馬を好きにならないといけない。
- ・ アンケートをとった方がよい。（市民に）
- ・ 自分で何かをやっていこうという意識。
- ・ 自分が主役になりたくない→なりたいとは思わない。
- ・ リーダー育成の必要性を認識。
- ・ 自分自身が一步ふみ出す勇氣。
- ・ 行政に関心をもっていたきたい。
- ・ 好きな分野をやる。
- ・ 自分にできることをみつける。できることが証明できるような場があったらよい。
- ・ 若い人、女性の方が少ない。そういった方を入れて頂ければ。
- ・ 自分が主役になれるのだろうかと思っていた。対馬市を知る。自分の意見が言える。これができれば。
- ・ 自分自身が市民となって主役になっていければ。情報交換のとりまとめ役（アドバイザー）
- ・ 主役となると難しい！知識を身につけること。いろんな所に積極的に参加すること。
- ・ 自然体で何か進められれば。
- ・ 「参加」は非常に大事。出席ではなく参加。自分のできることバンク
- ・ 己が責任をもつこと。
- ・ 人が集う場づくりが必要ではないか。モラルと道徳心。
- ・ 意見を聞く場が勉強になった。周囲に輪を広げていきたい。
- ・ ワークショップに参加することは非常に大事だと感じた。
- ・ 対馬を好きになる知り合い、仲間ができる。リーダーができる。知識ができる。末端からの意見が出た方がいい。
- ・ 若い人への発信が必要。積極的に前に出よう。
- ・ 次の世代に引き継ぐ、バトンタッチ→次世代がいなくなっている。引退することが必要（次世代へ繋ぎたい）
- ・ お互いが責任を持つこと、リーダーづくり。
- ・ リーダーが必要。
- ・ 成功する人を更に押し上げている、地域全体への広がりが必要ではないか。
- ・ 自身をもって参加し、発信することが大事。
- ・ 地域づくりににくまれ役は大事。それぞれあった役割をもつ。
- ・ 地域にあった取組みを少しずつやっていくことが大事。
- ・ 事業を通じて何か役立てないか。
- ・ 1つの方向性を決めていく必要がある。
- ・ 韓国に関する分野を条例に入れるべきではないか。

## 報告（１）女性及び青年の集いについて

### 1. 開催の目的

幅広い年代からの意見を生かした条例づくりを進めるため、これからの対馬を担う青年及び女性からの意見聴取を行うことを目的に開催

### 2. 開催日時・会場

平成22年12月23日（木） 豊玉文化会館



## 大切にしたい「これからの対馬」をつくる私たちの「出番」とは 1班

- ・ボランティア
- ・若者の雇用・生活・食べていける！→何で？→人がいないから、インターネットで物が買える、島の人が地元のものを買うお金を残す
- ・地区の小さなイベントを残していきたい（祭りなど）
- ・バラバラ対馬
- ・しまの人間でも本土に負けない！人ごとではない、やる気のある人をどんどん作る
- ・世の中に出ていない人をどうして出していくか
- ・家にいてはいけない、変わらない
- ・市のイベント→町単位、区単位
- ・バラバラ→まとまる
- ・内山盆地まつり
- ・楽しい場を作る
- ・すばらしい子どもを育てる→定年した先生などをボランティアで協力してもらい、地域のこどもを育てる→廃校舎など、対馬の子どもの城を建てていきたい
- ・1人ではなく皆が協力する
- ・美津島、商業地→人口増、となりの人も知らない
- ・子どもが自慢できる親になる
- ・九州郵船もカードが使えない→韓国の人ともうまくつきあっていく。カード（JCB）を使える店を増やす
- ・日本人観光客を呼べるように
- ・観光客を呼び込む
- ・行政も地元の業者を利用する→学校もユニフォームなどをネットで注文している
- ・予算見直し、生活保護の人など
- ・皆が出れる交流の場（とじこもらない）
- ・生活のゆとりがなければ
- ・1人では何もできないけれど、10人、100人集まれば大きな声になる
- ・若者が残り島を守る→そのためには地域が何をしたらいいか
- ・「ふるさと対馬」のため、みんなと高齢者、若者、子ども共に生きるため協力
- ・人の輪、やる気、元気
- ・対馬を守る若い人
- ・子どものびる対馬
- ・参加する
- ・地域マネージャーに誰がなっているかわからないので地区に入り込んで欲しい。

## 大切にしたい「これからの対馬」をつくる私たちの「出番」とは 2班

- ・環境マナーが良くない・・・EMも大切だけど
- ・子どもの自然（海）で遊び場所が減った
- ・若年層の職場
- ・地域を守る、向こう三軒両隣の気持ちをお互い失わず、明るく暮らす
- ・生活スタイルの変化で家庭中心の生活なので地域交流イベントの企画、三根上地区（私の地区）では収穫祭（11月）をかねて、グランドゴルフ大会、縦断駅伝の応援に併せた地区大清掃等がずっと続いているのは地域のぬくもりを感じます
- ・男女が対等に評価される社会になる為の対馬の女性力、能力の向上（内助の功は忘れずに・・・）
- ・第1次産業を守っていくこと。
- ・人に頼り、頼られること
- ・地域の絆が薄れている、リーダーがいなくなっている、地域の人が交流する場が必要
- ・長男は実家に帰ること
- ・人口の増加
- ・自然を大切に

## 大切にしたい「これからの対馬」をつくる私たちの「出番」とは 3班

- ・若い人が出て行かない対馬に！
- ・対馬から有名人を出す！
- ・スポーツ校、チームをつくる！（テニスとか）
- ・地域の人が先生になる（島外出身の先生が多い）
- ・今の対馬は老人が元気、若者は弱い
- ・「帰ってないなら対馬を宣伝してくれ」
- ・対馬に詳しくなる→地元の人が地元を知る
- ・若い人にも年配の人にも住みづらい（働く場所、病院検診など）
- ・とんちゃん部隊に対馬を広めてもらう
- ・観光
- ・住む人の意識
- ・対馬を出た人が本州で働き、出身地の話をすると知らない人が多い
- ・地元出身の先生、地域の人が学校に入り込んでもらう
- ・安定した収入、就職がない、農業漁業の始め方がわからない、流通方法がない
- ・若者が元気になる、それを引っ張っていく！友人に宣伝してもらう
- ・対馬に来てもらうには？→観光案内所が日曜日開いていない、島外の人にやさしくない、繋がり強い反面、外からの人には警戒心が強い、WELCOME な雰囲気
- ・対馬から有名人を出す
- ・広すぎて行く機会がない
- ・子ども達に対馬を幅広く知らせたい
- ・地域のことを知らない、不審者と思われる（ドライブスルー）
- ・1回外に出ると戻ってくるチャンスがない、かと言って高齢者は住みやすいのか？病院とか
- ・何もかもが中途半端、ここでがんばらんと
- ・求人がない、市の支援を知らない担い手・・・
- ・若者が率先してイベントに出ない
- ・全て意識改革、リーダー不足、人材育成→リーダーセミナー
- ・とにかく情報発信（対馬→対馬の人へ）（対馬→島外の人へ）
- ・若者をひっぱりリーダー的人になる
- ・若者の活性化
- ・他の地域に行くことがない
- ・自分の住んでいることを知る
- ・対にもどる、戻らない
- ・みんなが出て行く出番（機会、イベント）

## 大切にしたい「これからの対馬」をつくる私たちの「出番」とは 4班

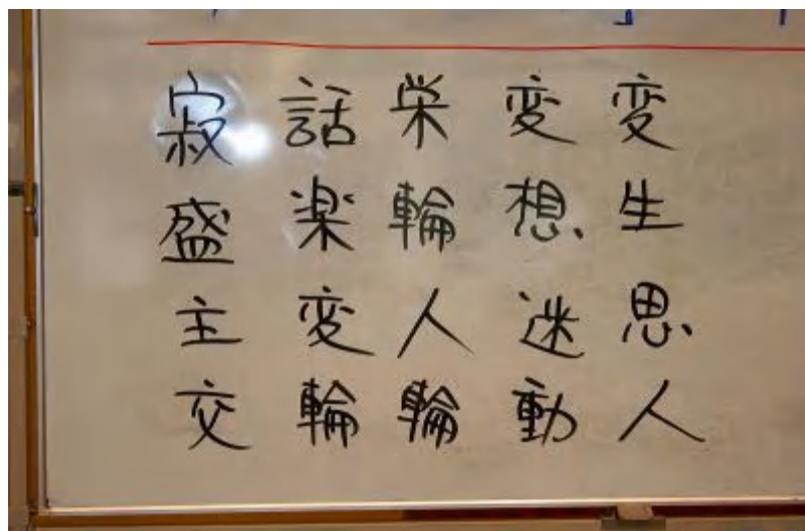
- ・地域の行事が減った、集まる機会が減った
- ・各地区の公民館を有効活用
- ・環境マナーが良くない
- ・1人1人の意識改革
- ・人口の増加
- ・できることからボランティア、無理せず、各種団体と連携して（消防団、青年団、婦人会など）
- ・地域の繋がりが薄くなっている
- ・雇用の増加
- ・退職者（教員、役所）の人材確保
- ・リーダーの不足
- ・リーダーによって人との繋がりが広まる、連携が深まる
- ・自分の声をあげる
- ・子どものことを中心に、学校の統廃合は地域が衰退する
- ・空き缶拾い
- ・やる気のある元気な人の輪をつなぐ島
- ・老人の社会参加をしてもらう、環境美化（環境王国）
- ・対馬に対しての魅力がない、個人の意識がない（イベント、団体行事など）→自衛隊員家族の単身者が多くなった

## 大切にしたい「これからの対馬」をつくる私たちの「出番」とは 5班

- ・お年寄りから対馬のことを学び、それをまた伝えていく
- ・地域の絆が薄れてきている、リーダーがいない
- ・人口は減っているのに世帯数は逆に増えている
- ・環境問題ゴミのポイ捨て
- ・冬・・・つまらない、レジャーができない
- ・商工会の方の活弁な活動
- ・病院関係
- ・若い人、高齢者どちらも住みにくい
- ・横の繋がり希薄
- ・マナー問題→EMの前に
- ・自然を楽しめない（アサリ採りもできない）
- ・もっと1次産業、2次産業を頑張ってもらいたい
- ・皆をひっぱる、リーダーが少ない（限られる）
- ・対馬を観光で盛り上げるために→ゴミゼロを住民から
- ・きずな
- ・高齢者も住みにくい対馬になってきている
- ・島外の方から見た対馬
- ・第1次産業を頑張って欲しい
- ・対馬の良いところをよく知っているお年寄りの話を聞く
- ・田舎の方は閉鎖的？
- ・農業法人等できないのか？
- ・韓国の観光客等の不満しかない
- ・第1次産業

## ワークショップに参加した感想（1文字）

- ・寂・・・今の対馬をみて感じること
- ・盛・・・もっと盛り上げていきたい
- ・主・・・ひとりひとりが主役とい気持ちをもって
- ・交・・・色んな人と交わっていきたい。
- ・話・・・対話が人のつながりのきっかけ、スタートとなる
- ・楽・・・他の色んな方の意見を聞くことができ楽しむことができた
- ・変・・・人の心、これからの対馬、元気に変わって欲しい
- ・輪・・・皆が1つになって元気に生きる
- ・栄・・・対馬が栄えることを願って
- ・輪・・・やる気、人との繋がり
- ・人・・・人の増加、人の繋がり、人とのふれあい、まずはそこからスタート
- ・輪・・・人、地域の輪を広げよう
- ・変・・・新しく生み出すのも大変だと思うけど、変化させていくのも時間がかかります。皆何とか変えたいと思う意識を共有できて良かったです
- ・想・・・対馬を大事に想っている
- ・迷・・・まだ迷っているのでは、みんながいろいろ
- ・動・・・思いはあるのに行動に移せない
- ・変・・・ひとりひとりの意識改革
- ・生・・・生きる、全うする
- ・思・・・人を思う
- ・人・・・つながり



## 報告（２）アンケート調査について

（仮称）対馬市市民基本条例検討に係るアンケート調査について

### 1. アンケートの目的

- （１）第２回、第３回（仮称）対馬市市民基本条例検討委員会において、「これからの対馬のために大切にしたいこと」「市民が主役となるために自分自身に何が必要でしょうか」と題し、ワークショップを開催し、意見のとりまとめを行ったが、同様の内容について、意見聴取する。
- （２）（仮称）対馬市市民基本条例に盛り込む項目に関し、意見聴取する。

### 2. 調査方法

- （１）市民アンケート調査
  - ・対馬市内に居住する１８歳以上の男女（H22.3.31現在）
  - ・対馬市の住民基本台帳から２，０００人を無作為に抽出
- （２）対馬市職員アンケート調査（デスクネット（職員回覧板）に掲載）
- （３）高校生アンケート調査（高校へ依頼）

### 3. 調査期間

- （１）１月下旬～２月

平成23年1月

市民の皆様

対馬市長  
財部能成(公印省略)  
(仮称)対馬市市民基本条例検討委員会委員長  
加留部貴行(公印省略)

**(仮称) 対馬市市民基本条例検討に関するアンケート  
調査について (お願い)**

対馬市においては、(仮称)対馬市市民基本条例検討委員会を設置し、「地域主権型社会」実現のため、市民、行政、議会それぞれの役割や責務を明確にするとともに、市民の皆さんにも市政の担い手として、関わっていただくための「みんなのルール」づくりを進めています。

委員会では、現在条例の前文及び目的の検討を進めておりますが、今回市民の皆さんを対象にアンケート調査を実施し、皆さんのご意見を条例へ反映させていきたいと考えております。

どうか本アンケート調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

※このアンケートは、18歳以上の市民の皆様から2,000人を無作為抽出し、送付させていただきました。

※個々のご意見に対して、直接個別の回答はいたしませんので、ご了承ください。

※この調査票は、無記名で回答していただくもので、個人の秘密が漏れたり、他の用途に使われるなどのご迷惑をお掛けすることは一切ございません。

**アンケート調査票のご記入について**

- Q1～Q4については該当箇所に○を付けて下さい。Q5については自由にご記入をお願いいたします。
- ご記入がお済みになられましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、平成23年1月31日(月)までにお近くの郵便ポストに投函してください。

お問い合わせ先

対馬市厳原町国分1441番地

対馬市役所地域再生推進本部 協働のまちづくり推進グループ

TEL 0920-53-6111 (内線308/306)、FAX 0920-53-6122

E-mail : [tiikisaisei@city.nagasaki-tsushima.lg.jp](mailto:tiikisaisei@city.nagasaki-tsushima.lg.jp)

〈 町、 歳代、 男性 ・ 女性〉

(※H23.1.1 現在)

Q1 あなたは、対馬市において(仮称)対馬市市民基本条例の制定に向けて取り組んでいることを知っていますか？

( ) 知っている

( ) 知らない

Q2 あなたは、これからの対馬のために大切にしたいことは、どんなことだと思いますか？（複数回答可）

- 自然環境を守っていくこと
- 地域経済の活性化
- 観光の振興（交流人口拡大）
- 第1次産業（農林水産業）の振興
- 韓国との関係
- 先人達からの学び（雨森 芳洲先生・陶山 訥庵先生）
- 地域の絆
- 協働のまちづくりの推進（地域マネージャー制度）
- その他（ ）

Q3 あなたは、市民が主役のまちづくりを進めていくため自分自身に何が必要だと思いますか？（複数回答可）

- 対馬のことを知る、好きになること
- 地域の活動に積極的に参加すること
- ボランティア意識を持つこと
- 自己の発言や行動に責任を持つこと
- 地域コミュニティに積極的に参加すること
- 市政へ関心を持つこと
- その他（ ）

Q4 あなたは市民が主役のまちづくりを進めていくために、どのような事柄を検討すべきだと思いますか？（複数回答可）

- それぞれ（市民、行政、議会等）の役割や責務について
- 市の政策を検討する際の市民参加のあり方
- 市の事業を実施する際の市民参加のあり方
- 行政情報の公開や説明のあり方
- 市民の声を反映する行政のあり方
- コミュニティ活動での市民参加のあり方
- その他（ ）

Q5 あなたは対馬市がもっと良くなるためにどんなことが必要だと思いますか？

ご協力ありがとうございました。

## 用語説明

### 協働

共通の目的の実現のために、それぞれが自らの役割を自覚し、ともに考え、ともに汗を流して取り組んでいくことです。

### 地域マネージャー制度

地域（行政区）にお住まいの皆さんと地域を担当する職員が、一緒に汗を流し、生活に身近な課題の解決や地域の将来について、話し合い、行動する制度です。

### 市の政策を検討する際の市民参加のあり方

#### 市の事業を実施する際の市民参加のあり方

市の各種計画づくりや広く市民生活全般に影響を及ぼすような重要な施策の立案、実施及び評価については、それぞれの段階に応じ、適切に市民の皆さんにも参加いただく仕組みづくりのことであります。

### 行政情報の公開や説明のあり方

行政情報の公開請求に係る手続き等は、「対馬市情報公開条例（H16.3.1施行）」で定められています。また、それ以外にも様々な情報を積極的かつ迅速に提供するとともに相互間の情報共有を図る仕組みづくりのことであります。

### 市民の声を反映する行政のあり方

市政に関する市民の皆さんからの意見を真摯に受け止め、それを市政に反映させるとともに、様々な手段により市民の皆さんと情報交換を行う仕組みづくりのことであります。

### コミュニティ活動での市民参加のあり方

地域住民自らが考え、自らの役割を自覚し、互いを十分に尊重しながら協力し合って地域の課題を見だし、解決するなど、地域ごとに特色のある住み良いまちづくりを進める仕組みづくりのことであります。現在市で取り組んでいる地域マネージャー制度もその一つです。

## 議題（１）条例の前文及び目的について（たたき台）

### これからの対馬のために私たちが大切にしたいこと （仮称）対馬市市民基本条例 前文（案）

私たちの島、対馬は、古の時から大陸との人、モノ、文化の交流の窓口となり、時代の局面の架け橋として、海峡に位置する独特な地理的環境をもって歴史をつなぐ重要な役割を果たしてきました。また、島という環境が希少価値ある多様な動植物の命を育み、絆で支え合う人々の生活、豊かな自然の恵みからなる産業、個性と特色ある文化を生み出してきました。

島内外との多様なつながりの中で生きてきた対馬の先人たちは、大陸との交流や日々の暮らしの中から得た知見を今でも私たちに伝えています。雨森芳洲の「誠心交隣」や陶山訥庵の偉業は、時代を超えた今でもあせることなく私たちの中で語り継がれてきています。

そして、行政として別々であった6つの町は、平成の大合併を経て「対馬市」として一つとなりました。しかし、私たちは今、島に住む者として「ひとつ」になっているのでしょうか。自然への畏敬の念やもてなしの心や思いやりの気持ちを抱いているのでしょうか。地域の絆や人とのつながりを失ってはいないのでしょうか。時代の変化が激しい昨今、人々の輪が崩れ、迷い、寂しい思いを抱く「無縁社会」は、決して他人事ではなく、私たちの生活の中にも忍び寄ってきています。

今こそ、島に生きる人々の絆を紡ぎ直し、明日を担う世代が誇りを持って「私の故郷は対馬」と胸を張れるようにしていくために、これまで以上に市民が市政に関わる、新たな仕組みづくりが必要です。

そこで、更に市民協働を推進し、地域主権を確立するためには、市民、議会、行政のそれぞれの役割や責務を明確にするとともに、これからの私たちが主体的にめざすまちづくりの方向性を示す最高規範として、ここに対馬市市民基本条例を制定します。

#### ※目的案

（目的）

第1条 この条例は、対馬市における個性豊かで活力に満ちた社会を構築していくために、基本理念および基本原則を明らかにするとともに、市民、議会および行政の役割と責務ならびに情報共有と市民参画と協働による自治の基本的事項を定めることにより、地域主権をめざした市民主体のまちづくりの実現を目的とする。